

# 高崎市、中心部活性化し産業振興へ

## 個性生かした町づくり

無料貸自転車・カフェ

他県にない発想で

群馬県高崎市は自らの個性を生かした産業振興などに4月に始めた「高崎町なかコミュニティ」にない発想で町づくりや企業誘致の優遇制度を充実させており、成果が着実に生まれつつある。

◇ 無料で乗り放題、しかも事前の手続き不要。高崎市内の回遊性向上を狙った無料の貸自転車「高チャリ」



高崎市内の回遊性向上を狙った無料の貸自転車「高チャリ」



「特別な条件はない。他地域の事例から発想を転換した」と話す。盗難車「高カフエ」も4月にスタート。中心部ににぎわいを戻す動きが活発だ。

好調な企業立地

コンベンション施設も

さらに、独自の税制優遇も加速している。旧国鉄の高崎操車場跡地を対象に「ビジネス立地奨励金」を創設した。県内の他地区と比較して高い地価を考慮し、市外からの進出企業や市内の移転企業に上限を設けず土地の取得費を3割補助する。さらに固定資産税などの相当額を5年間交付する。

県全体の企業誘致も好調だ。経済産業省が発表した12年の工業立地動向調査によると、県内で工場建設を目的に企業が取得した土地の件数は前年比2・1倍の70件で全国3位。製造業に限ると、立地面積は113・8㌖と全国1位。前年の5・6倍にV字回復した。

コンベンション施設の建設が計画されている高崎市内の高崎競馬場跡地から商店へ人の回遊性を高める取り組みの一つだ。市外や県外に拠点を移す構想を持った企業が多かっただけでなく、企業ニーズに合わせた立地条件が揃っていないこともあった。群馬県は日本海と太平洋の間に位置し、北と南の高速道路網が交差する。物流の中核拠点でもある。自然災害の少なさも魅力の一つだが、いずれも企業進出につながる決定打ではない。他地域の誘致条件を参考に、用地取得の補助金や税制優遇の制度を創設した。

「県は高崎市の競馬場跡地に会議や展示施設を中心としたコンベンション施設を建設する予定です。これまでもさまざまな構想が浮上った。利用客は車や鉄道で高崎に降りる。市内で食事をしてもらえる。観光や宿泊面でも相乗効果が期待できる。同様の施設は県内にない。群馬の表玄関である高崎に必要なものであり、市も連携、協力していきたい」。

14年に北陸新幹線が金沢市まで延伸します。高速交通網がより充実します。チャンスではあるが、ストロー現象も考えられる。発言したことは必ずやり遂げる実行力を発揮し、市の魅力アップに挑戦し続けていく。

インタビュー



高崎市長

富岡 賢治氏

市の魅力アップに挑戦し続ける

「中心市街地の衰退や産業の流出は地方都市の共通課題です。『町なか人がいない。閉じたシャッターをあげよう』というのが各地共通の課題だ。戦後65年の間、町中

の活性化やアイデンティティづくりはずっと言われ続けてきたこと。しかし、成功事例は少ない。人が集積する土台作りが欠かせない。町中の人口を増やすこと、魅力あるメイン通りや

店舗づくりが大切だ。そして、努力する市民を支えることが、行政や金融機関に求められている。『具体的には、例えば、新規創業の支援制度として融資の支払利子全額を5年間補助する制度を設けたことだ。この2年間で開業した50人が利用した。開業数は震災前と比較すると1・5倍の水準だ。茨城県では店の開業を目指していた若者が、震

災で被災した後に高崎市の創業支援の取り組みを評価して、行政や金融機関に求められている。『具体的には、例えば、新規創業の支援制度として融資の支払利子全額を5年間補助する制度を設けたことだ。この2年間で開業した50人が利用した。開業数は震災前と比較すると1・5倍の水準だ。茨城県では店の開業を目指していた若者が、震

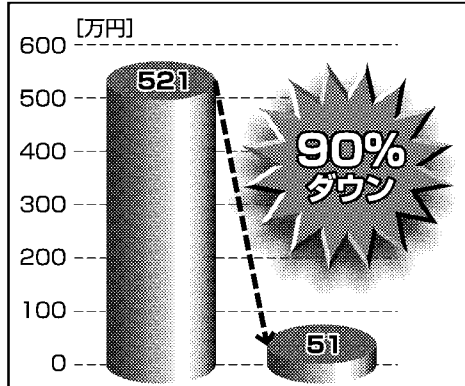
災で被災した後に高崎市の創業支援の取り組みを評価して、行政や金融機関に求められている。『具体的には、例えば、新規創業の支援制度として融資の支払利子全額を5年間補助する制度を設けたことだ。この2年間で開業した50人が利用した。開業数は震災前と比較すると1・5倍の水準だ。茨城県では店の開業を目指していた若者が、震

災で被災した後に高崎市の創業支援の取り組みを評価して、行政や金融機関に求められている。『具体的には、例えば、新規創業の支援制度として融資の支払利子全額を5年間補助する制度を設けたことだ。この2年間で開業した50人が利用した。開業数は震災前と比較すると1・5倍の水準だ。茨城県では店の開業を目指していた若者が、震

群馬県特集

## キラリと光る環境技術 ぐんまのエコ創造企業

年間521万円の電気料金が51万円※に!



※ヤマト本社ビル(8階31m、延べ床面積4,400㎡)で、電気料金(空調用熱源エネルギーコスト)は、年間51万円です。

コストカットの時代

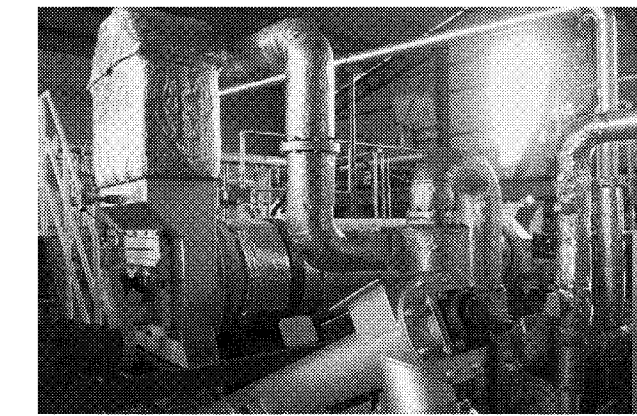
電気料金見直しのチャンス!

深夜電力を使って熱(エネルギー)をつくり、昼間の空調に利用するのが蓄熱システム。割安な深夜電力で100%蓄熱するのに加え、さらに空調機の高効率運転を実現したため、空調電気料金は90%削減と大幅ダウンすることができます。

蓄熱システムの設置にかかる費用は、電気料金削減額の約5年分ですので、導入後約5年経過後は電気料金90%削減メリットを毎年享受できます。施設・建物の使用年数が約40年とすると「深夜電力」+「高効率蓄熱システム」の効果は絶大です。さらに省エネ、CO<sub>2</sub>排出削減で地球環境にやさしいシステムに仕上がっています。



群馬県前橋市古市町118 〒371-0844  
TEL 027-290-1800(代) FAX 027-290-1896  
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/



バイオマスをハイブリッド乾燥!

ジー・ピー・ワンでは家畜ふん尿や食品残さなどのバイオマスを、高効率で乾燥できるハイブリッド式乾燥装置を開発しました。乾燥後の工程となる炭化炉で発生する乾留ガスを回収して、乾燥に必要な熱エネルギーに再利用できます。処理量は日量で5トンから48トンです。ガスの投入量や温度を精密制御できる乾燥装置の標準品を開発し、炭化装置を含む既存の周辺装置と組み合わせることで、バイオマスを減容、軽量化して脱臭や腐敗防止ができます。生成した炭は燃料や土壌改良などに利用できます。エネルギー密度が高い食品残さや鶏ふんなどでは乾留ガスのみで運転もできます。また東日本大震災の津波で塩分を含んだがれきを洗浄した際の乾燥装置としての用途も提案しています。

株式会社 ジー・ピー・ワン

〒377-0201 群馬県渋川市上白井2523-5  
TEL 0279-60-2700 FAX 0279-60-2701  
E-Mail info@gpone.co.jp URL www.gpone.co.jp



微生物で生ゴミ処理、21世紀型農業を提案

安心・安全の農業、豊かな地域社会の創造へ。日本ゼウス工業、BePCCS 環境緑化研究所は「ビーパックス農法」の普及に取り組んでいます。ビーパックス農法は私たちの生活から排出された食品残さなどの生ゴミを焼却せずに、微生物の働きにより分解し、肥料として活用する循環型の農法です。

これまでに導入された地域では、焼却ゴミの減量という大きな成果を上げています。しかし私たちは単に処理費用の問題として生ゴミ処理を考えているわけではありません。日本の農業のあり方が問われている今、環境保全や食の安心・安全確保、地産地消の観点に立ち、ビーパックス農法を提案しています。

日本ゼウス工業株式会社  
BePCCS環境緑化研究所

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町3-3840  
TEL 0277(52)5434 FAX 0277(54)3894  
E-mail:n.zeusu@cronos.ocn.ne.jp

http://www.g-inf.co.jp/gunma-techno/gunma/103-002.htm



グラフト重合を応用した消臭剤

日本原子力研究開発機構在職中に進めた基礎研究を、開発者自らが製品化し、企業化しました。

香料で悪臭をマスキングさせる従来の方法と異なり、悪臭分子に直接働きかけ、ニオイを感じない成分に変化させる新しい技術です。先端科学を応用して、花やアロマの良い香りはそのまま残し、生活悪臭だけを選択的に消し去る技術開発の成果です。無香料タイプなので香料が苦手な方や、ペットと共に暮らすご家庭で威力を発揮します。

環境浄化技術のご相談は!

株式会社 環境浄化研究所

ー日本原子力研究開発機構第1号認定企業ー

〒370-0833 群馬県高崎市新田町5-2  
TEL.027(322)1911 FAX.027(322)1912